

## 推薦図書

『82年生まれ、キム・ジョン』

チョ・ナムジュ 著

筑摩書房

推薦教員

国際言語文化学科

水谷 清佳 准教授

「キム・ジョン」は1982年生まれの韓国女性に最も多い名前（キムは韓国で最も多い姓でもある）とされ、それはどこにでもいそうな女性であることを示唆している。主人公が幼い頃から体験する様々な「女性としての生きづらさ」。家庭、学校、社会において女性であることだけを理由にした理不尽さとの葛藤。その姿を自分に重ね合わせた人々による共感、韓国で100万部を超えるヒットを生み、世界各国でも翻訳出版されている。

本書は主人公が通う精神科医のカルテの体裁をとっており、誕生から小中高大学時代、恋愛、就職、結婚、出産、育児に至る33歳主婦キム・ジョンの半生を辿っていく。カルテだけあって一文が短く、複雑な描写も少ないためサクサクと読みすすめられる。また、時系列に回顧していくその背景には、当時の韓国社会や文化状況が根拠資料つきで差し込まれており、小説というよりはドキュメンタリーを見ている感覚すら覚える。

淡々とした文体に爽やかなアクセントを与えてくれるのは、キム・ジョンの母の言動だ。例えば、就職活動が上手くいかないジョンに父は「おまえはこのままおとなしくうちにて、嫁にでも行け」と言う。それに対し母はスプーンを食卓にたたきつけて「ジョンはおとなしく、するな！元気出せ！騒げ！出歩け！」と捲し立てる。高度成長期の韓国社会を支えた、強くたくましく賢妻賢母オ・ミスクもまた、男女の不平等に苦悩してきた女性の一人である。

私自身、本書の内容に実体験的な共感よりは「身近な物語」として共感した部分が多々ある。それは「キム・ジョン」な体験をしていた/している身近な女性が、韓国にも日本にも、そして家族のなかにもいるからだと思う。日本の大学生の皆さんにとって共感できる部分はあるかもしれないし、ないかもしれない。しかし、国や世代、性別に関わらず手に取ってほしい一冊である。「自分をとりまく社会の構造や慣習を振り返る」第一歩として。



教員推薦図書架に展示中です。ご覧下さい。



図書館職員おすすめ本を展示中です。ご覧下さい。